

cruise  
&  
resort



特別とじ込み付録

**AZUR  
SPECIAL DVD**

# 極上の クルーズ紀行

BS-TBS人気番組・特別編

コスタコンコルディア  
シルバースピリット  
ジャヤバルマン

九州と台湾との間に弧状に連なり、  
日本の本州が入ってしまうほどの広い海域に、  
大和・琉球と二つの文化圏が混ざり合い、  
独自の文化を作り上げている南西諸島。  
ゆるりと流れる非日常、  
豊かな文化、紺碧の海を求めて、  
島々へ出かけよう。



Special Feature

# 南西諸島 美ら海の 島々へ。

RAKUEN CRUISE FOR NANSEI ISLANDS

中世の趣を残す街と  
ワインと美食の旅  
アッパーラインバレー

Cruise  
Graphic

vol.22

[写真家のフォト日誌]  
アクアエクスペディションズ  
アマゾン川クルーズ

# アマゾン

*Amazon River Cruise, photo & text by Masahiro Ohashi*

# 源流。

世界最大の流域面積を誇るアマゾン川。その源流はヘルー奥地にある。世界中に秘境と呼ばれる場所が、現在、一体いくつ残されているのだろうか。間違いないその一つである。アマゾン川源流のクルーズ。時には冒険家気分で小型ボートに乗り換え、木々の間を大蛇のように、くねくねと流れるその源流を遡る。夕暮れ時には、闇にその主役を譲る密林。そこから発せられる野生の息吹を、五感で感じながら、シャバン片手に過ごす。日常を離れ、野生とほんの少しだけ対峙する貴重な時間。

写真・文 大橋マサヒロ  
photo & text by Masahito Ohashi

# 森


羅万象を映し出す  
鏡のように澄んだ川。

空、雲、森の木々、その空間を  
気ままに飛び交う鳥たち。  
侵入者である我々の感覚を  
麻痺させてしまふ  
完全なるシンメトリーの世界。









朱 色に染まる水面を優雅に漂う客船アリア  
心に染みる夕日には、  
人生でそろそろ何度も出会うことはないだろう。  
森の奥の棲み処へと帰る鳥たちに別れを告げる  
アマゾンに生きるということは、  
さまざまな光を求めながら、  
悠久の時間の中を旅することかもしれない。

# Photographer's eye

写真のココロ

写真、文=大橋マサヒロ  
photo & text by Masahiro Ohashi

おおし・まさひろ

1971年東京都生まれ。高校生のときに訪れた米国・グランドキャニオンの雄大な風景を見て、世界のすべてを見てやろうと決心。学生時代からさまざまな地を旅する。旅行会社勤務時代には、アフリカ、南米、南極などの僻地を好んで添乗員として赴く。モルディブ駐在時に出会った現地の子供たちの澄んだ瞳に恋して写真家を志す。以来、旅行誌や会員誌などの撮影で世界を飛び回る日々が続く。



## Cruise data

- 船名: アリア
- 航路: ナウタ〜マランノ川〜チョロヤク川〜タクシャリバー〜バカヤサミリア〜タファアヨ〜チャロ湖〜イキトス
- 乗船日: 2011年6月13日〜6月17日
- 全長/全幅: 45/9メートル
- 旅客定員: 32人
- http://aquaexpeditions.com
- 問い合わせ: インターナショナル・クルーズ・マーケティング
- TEL 03-5405-9213
- ジェイバ
- TEL 03-5695-1647

## Photo data

- カメラ: キヤノンEOS 5D Mark II, 7D
- 写真①
- シャッタースピード: 1/320秒 絞り: F8
- レンズ: 200mm ISO: 400
- 写真②
- シャッタースピード: 1/125秒 絞り: F8
- レンズ: 24~105mm ISO: 100
- 写真③
- シャッタースピード: 1/100秒 絞り: F5.6
- レンズ: 17~40mm ISO: 800

濃い目  
の珈琲をすすりながら朝霧にかすむ川岸の木々を眺めている。目が慣れてくるとその川面に、今にも霧と大河に飲み込まれそうな小さな舟が漂っているのが見えてきた。ともかくシャッターを切った。森の生き物たちはまだ夢見心地。朝霧と無音、モノクロの世界で動くものはその小舟だけ。支流を疾走していたボートのエンジンを含めて、みんな目を閉じ、瞑想。すると森に一瞬の静寂が訪れる。しばらくすると、我々の存在を認めてくれたのか、森の奥から虫の音、鳥たちの鳴き声、さらには得体の知れない何かの遠げが聞こえてくる。深く息を吸い、吐き出すと肺がアマゾンの空気で満たされる。ああ、やつとこれでアマゾンと一体になったのだ。自分もその景色に属していく気がする。

スタッフがゲストにグラスを配り、シウワシウワのよく冷えたシャンパンを注いでくれる。このかけがえのない自然と、この時間を共有できた仲間に乾杯！ 夕暮れ時に、朱色か

ら藍色に移りゆく川を眺めながら同乗するゲストと飲み交わすシャンパンは格別だ。

クルーズ最終日には忘れられない光景に出会った。支流に入った我々のトレジャーボートを先導するかのように、それまで木に止まって羽を休めていた真つ白い鳥たちが一斉に

飛び立つではないか。その数は数百羽。青い空と、緑の密林を縫うように流れる川を優雅に舞う鳥たち。我々はそのまっただ中に放り込まれてしまったようだ。

世界最大の河川流域を誇るアマゾン川では、確実に我々の日常とは違う時間が流れている。



1. アマゾンには色とりどりの鳥や動物、昆虫が生息していて刺激的だ。
2. 電気も水道もない密林に住む現地の人々は、少しはかみながらも笑顔で手を振ってくれる。アマゾンでは貴重な現地の人との出会いは旅の醍醐味。
3. 船内のバーラウンジ。昼間の容赦ない日差しで火照った肌と喉をビールで潤す。
4. ベッドに潜り込んだまま一面の窓に広がる雄大な風景を堪能できる。広く、無駄のないデザインは居心地よいクルーズライフを約束してくれる。